

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名は、ほとんどの児童が読んだり、書いたりすることができるが、字形を捉えることができていない児童が数名いる。 いろいろな読み方で、音読に取り組んでいる。 進んで読書をする児童が多いが、字を読むことが困難で読書を苦手とする児童もいる。 三文程度の基本形に即した文は書くことができるが、助詞、促音、長音の使い方が身に付いていない児童がまだ多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートやひらがなプリントなどを使って個別指導を行う。 音読の宿題を、毎日出す。一人、ペア、グループ、全体など読み方を変えたり、動作化・劇化などを工夫したりして、音読の楽しさを感じられるようにする。話す・聞くスキルを活用し、声に出して学習できるようにする。 読書の時間を確保する。すきま読書をすすめると共に、児童が興味を抱くような本を紹介したり、読み聞かせを積極的に取り入れたりする。 基本形（いつ、どこで、だれと、何をした、どうだったか）を使い、助詞・促音・長音の使い方を繰り返し練習する。日記を書いたり、他教科でも感じたことや気付いたことなどを書く活動を多く取り入れたりする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数、たし算、ひき算の理解はおおむねできている。 数を2や5のまとまりとして捉えられない児童が多い。 ブロックや指、半具体物を使って計算をする児童が3割程度いる。 文章問題の立式や、問いに応じた答えの単位を使用することが難しい児童もいるが、大多数ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から、ものの数を数えるときに、2や5のまとまりで数えるようにし、2学期以降は、10のまとまりを意識させる。 フラッシュカードを使って、数の構成を意識させたり、計算問題に慣れさせたりしていく。 文章問題を読み、立式で使う数字や、答えで使う単位をチェックさせてから、問題を解くようにする。例示を示し、立式や答えの書き方に慣れていく。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 一人一鉢で継続的にアサガオの世話をし、愛情をもって育てた。生き物に関しては、触れあう機会が少なかった。 学校探検で2年生に学校の様々なことを教わった。自分たちの調べたいことを先生方にインタビューし、分かったことを共有することで学校の施設や生活の様子を知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> アサガオなどの植物や虫、ウサギなどの生き物を実際に観察したり、世話をしたりする中で、動植物が生命をもっていることや成長していることに気付かせていく。 他学年との交流については、事前の顔合わせや事後の手紙等で気持ちを伝える活動も取り入れる。幼稚園・保育園との交流では、映像で撮ったものを鑑賞してもらう等、工夫して取り組む。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて、曲想を感じ取ることができる。 身体でリズムをとったり表現したりしながら楽しく曲を聴いている。 意欲的に取り組もうとする児童が多いが、楽譜を見たりして、正しい指使いやタンギングが十分でない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏をよく聴いて体で拍を感じ、心の中で歌うように指導する。 いろいろな演奏形態の曲や楽器の音色を聴かせ、様子を思い浮かべて聴いたり、曲の気分を感じたりできるようにする。 楽曲の拍を感じ、手拍子するとともに、鍵盤を使って、指使いの確認やタンギングができるように、技能面を高めていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 作画や造形などの制作活動に意欲的に取り組む児童が多い反面、自分の思い通りに表現したり、自由に発想を広げたりすることに戸惑う児童が少なくない。 はさみ、のり、クレヨン、色鉛筆、絵の具など、用途に応じた道具の扱いに、今後も慣れていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発想に間違いや失敗がないことを前提として、制作前に思いを聞き作品のイメージを膨らませてから表現させるようにする。また、柔軟な発想をしている児童の作品を称賛するなどして価値付けしていく。 鑑賞の場を設けて、互いの作品のよいところに気付いたり、自分の作品を工夫しようとしたりする意欲を育てていく。 スムーズに表現活動に入れるように実演をして見せたり、ICT機器を活用して手元の動きを視覚的にとらえさせたりする。生活科などの学習活動にも道具を取り入れ、扱う機会を増やしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に意欲的に取り組む児童が多い。 体の動かし方がぎこちない児童がいる。 できる、できないの個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 既知の運動には意欲的なので、様々な運動経験を積みさせる。 帯で体づくり運動やコーディネーションの活動を取り入れた授業計画を立てる。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 拡大した挿絵や動作化、役割演技などを授業に取り入れることで、登場人物の気持ちを考えることができるようになってきた。 自分の経験を振り返る際には、自分の考えたことを、文字に表すことが難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材提示や発問の際、また、児童の考えを共有する際にICTを活用して、児童が学習に関わる情報を視覚的にとらえられるようにする。 絵で表すことや聞き取って薄く書いてあげる必要がある。自分の考えや振り返ったことをワークシートに文章で記入し、児童間で伝え合う活動を積極的に取り入れ、道徳科の学習における関わり合いの機会を増やし、多面的・多角的な考え方に触れられるようにする。また、振り返りの時間も十分確保する。

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 読書が好きな児童が多く、読み聞かせを集中して聞くことができている。しかし、読む本の内容には差があり、図鑑などの本ばかり読む児童もいる。 話すことや書くことでは、初め、中、終わりの構成を意識して活動することができている。 漢字の学習意欲が高い児童が多い。しかし個人差があり、字形やとめ、はね、はらいを捉えることができている児童もいる。 文章を読んで、想像を広げられる児童と広げられない児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書、読書旬間、図書などの時間を活用し、読書の時間を確保する。また、児童が興味を抱くような本を紹介する。 国語の時間の他に、朝のスピーチをさせたり日記を書かせたりする際にも初め、中、終わりの構成を意識させる指導をする。 漢字指導時に個別指導を行い、宿題チェック時にも正しく漢字を書けているか確認する。 教科書の挿絵に注目させたり発問構成を見直したりすることにより、児童が想像を広げる支援をする。 音読の宿題を毎日出す。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算については、計算の仕方を十分に理解できていないため、間違えたり、答えを出すのに時間がかかったりする児童がいた。 ものさしを使って直線を上手に引くことできない児童もいる。 センチメートルやリットルなど、単位を用いた計算になると、できなくなったり、時間がかかったりする児童がいる。また、具体的なかさや長さがイメージできていない児童もいる。 時計の読み方が十分に理解できていない児童にとっては、時間の経過を計算することに難しさを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業で繰り返し演習問題に取り組み、年間を通して復習を続けていく。 1年生の学習内容を復習させ、10の合成や1桁の加法減法がひっ算の計算につながっていることを理解させるとともに、繰り返し演習をすることで計算に慣れさせる。 ものさしを正確に使えるようになるまで繰り返し練習させる。夏休みの宿題や補習授業などで復習する。 算数の時間だけでなく、日常生活においても「長さ」「水のかさ」「時間」を意識できるように話題にしていく。 小時計や計量カップなど、具体物を触らせながら学習を進めることで、理解に難しさを感じる児童が感覚的に理解できるような手だてとする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 日々ミニトマトの様子を観察し、変化や成長の様子に関心をもちながら育てた児童が多かった。 学校探検では、花小のことを教えるポスターやクイズ作りを通して、1年生に対してお世話したい気持ちや自分たちに何かできることはないかという思いが強くなった。 町探検では、自分のお気に入りの場所を伝え合い、ICTの画像を見ることで様々な場所を共有し、身近な地域に興味を持つことができた。 虫や野菜の観察を通して、生き物への親しみをもち、大切に世話を続けることができた。視点をもった観察をして、観察カードを書くことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市立図書館などから教材に関する資料を集めておき、児童が気軽に進んで調べることができるようにする。 1年生との直接的な関わりがもてなかったため、2年生の思いを実現することが難しい。しかし、おもちゃ作りや秋探しの単元では、できる限りの関わりをもてるように工夫していく。 実際に町探検へ行くことはできなかったため、地域で生活したり働いたりしている人々と関わる機会を作り、更に地域に親しみや愛着をもつことができるようにする。 生き物との関わりを通して、自分のよさにも気付けるようフィードバックをする。観察する際には、国語の観察文の書き方と関連付け、観察の視点、書き出しや文末表現の例を提示したりする。さらに、児童同士で読み合い、分かりやすい書き方をお互いに取り入れられるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 身体でリズムをとったり表現したりしながら楽しく曲を聴いている。 正しい指使いやタンギングが十分でない児童もいる。 歌唱では多くの児童が曲の感じを味わっている。 音符や休符などの記号についての学習に意欲的に取り組んでいる。 楽曲の特徴に気付き、味わって聴いている。曲の場面も想起させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習曲集を活用したり、個別指導の時間をできるだけ設けたりするなどして、タンギングや運指の技能を確実に定着させる。 わらべ歌・季節の歌・行事の歌などを通して、情感を育てていくと共に、楽曲の気分や歌詞の内容などを感じ取っていく。 楽しみながら記号についての知識を身に付けていけるよう、引き続き教材や活動を工夫していく。特にリズム譜の読み取りについては確実に定着させる。 曲の場面を想像しながら楽しく鑑賞することも取り入れる。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 図工の活動に関心が高い。 教科書の見本や、参考として見せた作品に似せることを目標にする児童もいる。自分なりのこだわりをもったり、様々な視点で考えたりする思考力を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに意欲が高まるように、参考作品を見せ、実演して見せる。 鑑賞の場を設けて、互いの作品の良いところを認める姿勢を育むとともに、友達の作品から新しい発見や参考にしたいアイデアを見付け、思考力を高めていく手立てとする。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に運動に取り組む児童が多く、楽しみながら授業を受けることができている。 ・運動能力や経験に差があり、技能面の指導を多く必要とする児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動意欲の高さを生かし、様々な新しい動きを取り扱うことで運動経験を豊かにさせる。 ・必要な指導をしつつ、それぞれの児童の実態に合った目標を設定する。 ・学習の規則を守ることの徹底と勝敗にこだわりすぎないようにする指導を行う。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを考えることや自己を振り返ることに個人差がある。 ・自分の意見を発表したり、書いたりすることが苦手な児童が複数いる。 ・自己肯定感が低い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大した挿絵の掲示や動作化などを多く取り入れる。振り返りでは、様々な場面を提示することで、振り返りやすくする。 ・各教科や体験活動と関連させて指導を行い、児童がねらいを自分事として捉えたり、自分の経験を基に自己を振り返ったりすることができるように発問を工夫する。 ・考える時間を十分確保する。自分の意見をうまく表現できない児童には、教師が意見をまとめたり、書くときに助言したりする。 ・ペアで伝え合う活動を取り入れることで、全員の発表する機会を保障する。また、伝え合う活動を通して、友達の見解を参考にさせる。 ・ワークシートや振り返りシートを工夫する。また、振り返りの時間も十分確保する。 ・授業の中で児童が互いの良さを見つけ伝え合う、認め合えるような場面を設定する。学習した道徳的価値を実践するような機会を通して、個人や集団の良さを価値づける。

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて） 改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文に興味をもち、積極的に読むことのできる児童が多い、一方で、根拠をもった人物像のとらえ方や読み取りには個人差がある。 読書が好きな児童がとも多い。 3年生になって、習得する漢字が多くなったこともあり、正確な書き取りができる児童が2年生の時よりも少なくなった。比較的漢字の書き取りが得意な児童も、とめ、はね、はらいなど不十分な部分が見られる。 話すことでは、主語・述語を明確にして、相手に分かりやすく伝えることに課題が残る。 聞くことでは、聞いた情報の中から要点を絞って整理することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで通り、読書の時間を確保し、読書への興味・関心を高めるとともに、授業では登場人物の心情や性格を捉えることができるようにサイドライン法などを活用していく。 音読の宿題を毎日出す。 新出漢字の学習では、書き方のポイントや間違えやすいポイントを分かりやすく示す。書き取りのノートを細かくチェックをして、正しく書いていなければやり直しをさせて、正確な書き取りを意識させる。 話すことについては、普段から、「いつ、どこで、だれが、なぜ、どのように、何をした（する）」（5W1H）等に気を付けて伝えることを示す。授業で自分の考えを書く時間を確保することで、話を組み立てる力を伸ばす。 聞くことについては、話を聞くときに工夫すること（大事な言葉だけをメモする等）について指導をする。紹介文や感想文を書く単元においては、メモを書いて、書く内容を整理する活動を取り入れる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 白地図、地図、資料等から情報を読み取ることに取り組み始めている。 社会科見学を通して小平市への関心が高まり、理解を深めることができた。タブレットのスライドを用いてそれぞれの気づきをまとめることができたが、個人のタブレット操作の技量が関係してくる。 読み取ったことを、表現したり、別の場所で活用・応用したりする力は個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 方位の表し方や地図記号については、授業内で折に触れて扱うようにする。また、副読本や教科書を併用しながら、複数の資料から情報を読み取れるような学習展開をする。 他の教科においてもタブレットを活用し、操作に慣れさせる。 社会科の学習に限らず、国語科や総合的な学習の時間等も利用し、自分にとっての学びをアウトプットする活動を取り入れながら、表現する力を付けていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九が定着していない児童が一定数いる。 定規やコンパスなどを使って長さを測ったり、線を引いたり、円を書いたりするのが苦手な児童が多い。 問題の答えは何になるか、どうしてそうなるのかしっかり考え、考えたことを説明し合う問題解決型の学習を繰り返し行い、定着を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟別指導、個別指導日、補習教室を活用して指導をし、定着を図る。 授業だけでなく宿題や朝学習でも測定をしたり、作図をしたりする機会を多く設け、正確に測定、作図をする力を定着させる。 問題解決型の学習を繰り返し行うことで、学習の進め方を定着させるとともに、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察を楽しんで行う児童が多いが、何のための実験・観察なのか理解できていない児童が一定数いる。 動物や植物の体など、正しい用語を使って表すことができない児童もみられる。 植物の発育状態に遅れがあったため、観察時期にずれが生じた。また、生き物を育てられない状況もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察を行う際には、学習問題を意識しながら取り組むことができるように教師が視点を示す。また、結果から得られたことを生かして考察をまとめることができるようにしていく。 授業のまとめでは、学習した内容を振り返るだけでなく、正しい理科の用語についても確認していく。 タブレットを活用して画像や動画を見ながら、調べたり観察したりする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 階名の読み取り、リズム打ち、リコーダーの指使いの学習等に意欲的に取り組んでいる。 楽器の音色の特徴に気づき、楽しみながら音楽を鑑賞することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードやCD、DVD等を活用して、読譜やリコーダーの指使いやタンギングについての知識や技能を楽しみながら確実に身に付けさせていく。また、旋律の動きや拍の流れ、強弱の変化などを手の動きや体の動きで表現する活動を通して、楽曲の特徴を体感できるようにする。感染予防に努めながら、実際にリコーダーの音を出しての演奏の機会を増やしていく。 鑑賞の活動を更に充実させて、表現に対する興味を広げていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組んでいる。 本年度より図工室での学習が始まったこともあり、環境、道具や材料などすべてに興味がある。作業を楽しめる反面、他のことに気をとられ、集中力がもたない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材提示や説明、作業の時間配分を細かく区切って授業展開にメリハリをつける。 初めて扱う道具が多いので、安全管理に特に配慮する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組んでいる児童が多い。 友達と協力して、用具の準備をしたり、励ましの声を掛け合ったりしながら学習に取り組むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や場の工夫をしたり、学習カードを活用したりしながら、子どもたちが自発的に動けるような場を設定していく。 安全に配慮することや、友達に励ましの声を掛けたり、応援したりする態度を、毎回の授業の中で価値づけていく。

	<ul style="list-style-type: none"> • 技能面に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習カードを活用し、自分のめあてと活動を振り返りながら、技能面での向上を目指す。また、技能面からの振り返りも行い、よりよい動きをするためにはどうすればよいかを考えることができるようにする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> • 登場人物の気持ちを考え、理解しようとする児童が多くいる反面、気持ちを想像したり、考えをまとめられなかったりする児童もいて、個人差が見られる。 • ねらいとする道徳的価値との関わりについて振り返ることができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 友達の意見を聞きながら、自分に近い考えを確認させたり、教具を用いながら登場人物の気持ちの変化を表現させたりし、児童が自分なりの考えを表出できる手立てを工夫して学習に取り組めるようにする。 • 各教科や体験活動と関連させて指導を行い、児童がねらいを自分事として捉えたり、自分の経験を基に自己を振り返ったりすることができるように発問を工夫する。また、個々の児童の実態に配慮しながらワークシートに書かれた児童の振り返りを紹介し、具体的に自己を振り返ることに対する意識を高める。また、振り返りの時間も十分確保する。 • 授業の中で児童が互いの良さを見つけ伝え合う、認め合えるような場面を設定する。学習した道徳的価値を実践するような機会を通して、個人や集団の良さを価値づける。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> • 簡単な語句の聞き取りや意味理解に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • ゲームやアクティビティなど活動を多く取り入れて、楽しみながら語句を聴き取り、活動だけでなく具体物や画像等を通して、視覚的に語句を理解できるようにしていく。

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の書き方の例など、型に合わせて書く力が身につけてきているが、要約など短くまとめて書くことが苦手な児童がいる。 文章の読み取りでは、本文から分かることと自分の意見との区別がついていないことや叙述に即して答えられないことも多い。 新出漢字の学習には意欲的に取り組んでいる。一方で、書き順や字形、読み方の定着には個人差があり、既習漢字を日常的に使うことができていない児童も多い。 学級文庫や図書時間を活用し、積極的に読書に取り組んでいるが、読む本の内容には偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く目的に応じて、「はじめ」「なか」「おわり」などの型を身に付けられるように引き続き指導していく。文章を書く上での材料の集め方やメモの取り方についても指導を行っていく。 文章（教材文）から分かること、問われていることを明確にしながら読み取る練習を重ねる。叙述を根拠に自分の考えをもてるよう、本文にサイドラインを引かせたり、ノートに書きださせたりする。読み取った内容を交流する場面などを設けたり、教師からの問い返しや児童同士の対話を通したりして、根拠を基に考えることができるようにする。 空書き、なぞり書きなど新出漢字の練習の流れを徹底する。小テストを行ったうえで、特に漢字に苦手な児童や、字形が整わない児童には間違えた漢字の直しを行うことや他の教科でも既習の漢字を使うよう指導することで少しずつ定着を図る。 国語の授業単元の発展として関連する本を紹介し、ノンフィクションなど、様々な種類の本に触れることができるようにする。読んだ感想などを交流し、新たな興味をもてるよう指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで学習課題を設定し、学習に意欲的に取り組むことができる。 グラフや図などから内容を読み取ることや、その変化を探求する能力に差がある。 見学の機会が減ったことで、児童によって表面的な理解にとどまることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも単元の導入で興味・関心をもつことのできる授業づくりに努める。 資料の読み取りを授業で繰り返し行う。資料から分かることを全体でおさえ、変化は何かをノートやワークシートに書かせ、資料を読み取る時間を確保する。 社会科見学を行ったり、動画を活用して視覚的に情報を捉える機会を増やす。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算をする力、測定をする力の個人差が大きい。 どうしてそうなるか理由を図や言葉、式を活用して説明する学習をさせてきた。また一つの解き方だけでなく、様々な解き方を粘り強く考えたり、友達にわかりやすく伝えようとしたり、意欲的に学習に取り組む児童も増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導、補習教室を活用し、個別にフォローを入れていく。また、学年の課題を教員が共有しプリント等学びをフォローする教材を用意して活用する。 友達の考えの良さ、伝え方の良さに触れさせながらよりよい考え方、考えのまとめ方、伝え方の指導をしていく。 問題解決型の学習を繰り返し行うことで、学習の進め方を定着させるとともに、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組む児童が多い。 観察、実験などに関する基本的な技能について、個人差がある。 事象・現象から問題を見出すことに差がある。 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力に差がある。 実験の結果から考察する力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が見出した問題から観察や実験の内容を設定し、意欲的に取り組めるように引き続き指導する。 観察・実験の手順、注意事項を確認し、基本的な技能を身に付けられるように指導する。 身近な事象・現象を提示したり、共通の体験を児童にさせたりすることで、問題を見出せるようにする。 単元ごとの児童の実態に応じて、既習の内容を振り返る時間をつくる。身近な事象・現象を提示して、生活経験と結び付けて予想や仮説を考えられるように指導する。 考察では、自分の予想や仮説と結果を比較して、結論が書けるように指導する。始めは、書き方の例を示し、徐々に自分の力で書けるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には意欲的に学習に取り組む児童が多いが、中には個別の支援が必要な児童もいる。 歌唱の活動が好きで、のびのびとよい表情で歌う児童が多い。 美しい音色でリコーダーを演奏できる児童が多く、前向きに取り組む姿が多く見られる。運指が身につけていない児童も数名いる。 鑑賞の活動に意欲的に取り組み、音色の違い等に興味をもって聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに意欲が高まるよう、難しい曲にも取りこませるなど、学習内容を工夫していく。個別にきめ細かく支援していき、確実に基本の定着を図れるようにする。 歌詞の内容を理解させ、さらに思い切り表現できるよう学習展開を工夫していく。 引き続き、よい音への意識を高め、互いに聴き合う時間を多く設定し、さらに自信をもたせる。基本が身につけていない児童には、個別に指導したり、家庭で練習するよう指導したりし、しっかり身に付けさせる。 教材や言葉がけを工夫して、鑑賞で学んだことを自分たちの表現に生かしていけるようにする。また表現の違いによる面白さに気付けるようにしていく。

図工	<ul style="list-style-type: none"> ・モダンテクニック等、新しく習ったことを意欲的に取り入れ、かつ応用して自分なりの表現を生み出せる、感性豊かな児童が多い。 ・納得いくまで粘り強く作品を完成させる児童と、後半雑になってしまう児の完成度の差が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考えて応用することで、自分の表現がさらに深められるような課題の設定、またいろいろなヒントで発想を促す。 ・完成作品の提示により作品の完成度の目標や、作業時間のペース配分を明確にする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に楽しく取り組んでいる児童が多い。密を避けながら工夫して運動することができたが、天候により十分な運動量を確保できない場面もあった。 ・ルールを守って集団行動をすることができる児童が多数いる。 ・ボール運動、マット運動等では運動経験の差があり、技能面での指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす心地よさを感じられるような指導計画を立てる。コーディネーショントレーニングを体づくり運動の単元に取り入れるなど工夫をする。 ・安全に気を付けて全力で取り組む大切さや、進んで友達を励ましたり、助言したり、応援したりする態度について、毎時間価値付けと指導をする。 ・学習カードを活用し、自分のめあてと活動を振り返りながら、技能や課題に粘り強く取り組む態度の向上を目指す。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言する児童は決まっている。友達の考えにハンドサインを出したり、付け足しをしたりできているが、たくさんの友達の考えを知ったり、考えを深めたりすることは一部の児童しかできていない。 ・道徳的価値については概ね理解できているが、自分の生活経験と関連付けて考えることに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを一人一人が表現し、友達の考えと比較できるように、発表方法を工夫するとともに、発表の時間を確保する。板書では、児童の考えを分類したり、関連付けたりし、考えの「見える化」を図り、考えを深められるように指導する。 ・自分の振り返りの時間をしっかりと確保することで、自分の今後の生活に生かしていけるようにする。また、事前に児童に取ったアンケートを紹介したり、題材に合った身近な出来事を話したりして、関心が高まるように導入を工夫する。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に大きな声で発声できる児童と自信がなく小声になってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して外国語を発声することができるような雰囲気を作ったり、意図的にゲームやアクティビティなどを取り入れたりするようにする。

	課題（児童の実態、学習状況、学力調査の結果、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の考えをよく聞いて、付け足しをしたり、質問をしたりしている児童が多い。一方で、自分の意見に自信をもって発表することができず、聞いているだけになってしまう児童もいる。 ・ 説明文の読み取りでは、筆者の主張を捉えたり中心となる文を見つけたりとすることができるが、文章構成を読み取ることが苦手な児童がいる。 ・ 書く事柄の順序を整理したり、伝えたいことを分かりやすくまとめて書いたりすることが苦手な児童が多い。 ・ 漢字学習では、書き順を正しく書いたり、日常的に使ったりすることができない児童がいる。また、文字を整えて綺麗に書く意識が低い児童がいる。 ・ 読書が好きな児童は多いが、読む量や内容に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で考える時間を十分に確保する。ペア→班→クラス全体というように、話し合う人数を徐々に増やすことで、自信をもって話し合いができるようにする。教室に掲示してあるハンドサインを活用し、一人一人が友達の考えに対して反応できるように指導する。 ・ 順序を表す言葉や、時系列を表す言葉に着目させて読むことに加え、事実と意見を区別することや、資料を用いた論理展開を理解できるように指導し、文章全体の構成を捉えられるように指導する。音読の宿題を毎日出す。 ・ 「書く」学習活動において、文章の書き方の例を提示し、「はじめ」「中」「おわり」の順序に着目させ、段落を活用した読みやすい文が書けるよう指導する。伝えたいポイントをメモするなど整理してから文章を書き、伝えたいことを分かりやすくまとめられるよう指導する。また、読み合う活動を通して書き直す活動を活用する。 ・ 新出漢字の練習を行う際に空書きやなぞり書きを徹底して行ったり、小テストやまとめテストを振り返らせたりし、繰り返し学習することで正しい書き方の定着を図る。ノートに書く際、既習の漢字を使うよう繰り返し指導する。新出漢字の学習の時はもちろん、字はゆっくりと丁寧に書くよう指導する。 ・ 本をすぐに手に取れる書環境を作り、読書の機会を多く設け、児童が十分に本を読める時間を確保する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土の学習において地球儀や地図で調べる際、学習に興味・関心をもって取り組む児童が多くいた。一方で、主な大陸名、海洋名、主要な海外の国の位置を正しく覚えていない児童もいる。 ・ 農産物の学習に興味・関心を持ち、自分たちで学習課題を設定し、学習に意欲的に取り組んだ。 ・ 資料の読み取りに難しさを感じる児童が多い。グラフや、図などから内容を読み取ることや、その変化の要因を探求する能力に差がある。 ・ 自分の考えをもつことのできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が興味・関心をもてる学習計画をたてると共に、教具や教材を準備していく。授業の際は地図帳を見ながら場所の確認を行い、空間的認識ができるように指導していく。 ・ 単元の導入で興味・関心をもつことのできるような授業づくりをこれからも努める。 ・ 資料の読み取りを授業で繰り返し行う。資料の読み取り方を例示してから、同じような資料の読み取りに取り組みせたり、全体交流を通して自分の考えをもたせたりする。 ・ 始めに友達と交流して考えを深めてから、自分で考えをノートに記入できるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章をきちんと読まず、表面的に捉え、解答を誤ってしまう児童が少なくない。 ・ ノートの書き方が雑で、そのために計算ミスにつながっているケースが一定数ある。 ・ 自分の考えを一生懸命にノートにまとめようとする児童が多い。一方で、まとめる際に既習事項を上手く活用できなかつたり、自分にしかわからない言葉でまとめていたりすることがある。 ・ 友達と自分の考えを比べながら話を聞き、考えを深めることができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章題ではわかるどころと問われているところに線を引かせる指導をして、題意を正確に捉えられるよう指導する。 ・ マス目に文字、数字をきちんとそろえて入れる指導を徹底する。上手に書いているノートを例示し、モデルを示す。 ・ 子どもたちが意欲的に取り組める授業づくりに努める。問題解決型の学習を繰り返し行うことで、学習の進め方を定着させるとともに、既習を振り返り、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。 ・ 考えを聞き合う学習を今後も行い、相違点に着目して考えを広げていける指導をしていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察や実験に意欲的に取り組む児童が多い。 ・ 身近な事象・現象から問題を見出す力が乏しい。 ・ 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力に差がある。 ・ 観察、実験などに関する基本的な技能は概ね身に付けており、学習内容をきちんと理解できる児童が多い。 ・ 実験の結果から何が結論付けられるかを考える力や表現力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が見出した問題から観察や実験の内容を設定し、意欲的に取り組めるように引き続き指導する。 ・ 身近な事象・現象を提示したり、共通の体験を児童にさせたりすることで、問題を見出せるようにする。 ・ 単元ごとの児童の実態に応じて、既習の内容を振り返る時間をつくる。身近な事象・現象を提示して、生活経験と結び付けて予想や仮説を考えられるように指導する。 ・ 観察・実験の注目するところや手順、注意事項を確認し、基本的な技能を身に付けられるように引き続き指導する。 ・ 考察では、自分の予想や仮説と結果を比較して、結論が書けるように指導する。始めは、書き方の例を示し、徐々に自分の力で書けるようにする。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> 全体としては意欲的に学習に取り組んでいる。 歌唱の活動への意欲にはやや差がある。 リコーダー奏に苦手意識をもっている児童もいるが、できるところは挑戦しようと前向きに取り組む姿勢が見られる。 鑑賞の活動では、楽器に興味をもち、意欲的に聴く姿勢が多く見られた。自分たちの表現と結び付けて考えられる児童はまだ少数である。 友達と協力して教え合いながら楽器の練習に取り組むことができ、楽しんで器楽の活動に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに意欲が高まるよう、難しい曲にも取りこませるなど、学習内容を工夫していく。 安心して歌える雰囲気を作ったり、様々な曲に取り組んだりすることで、意欲を高めていく。 苦手な児童には個別指導を行い、苦手意識を取り除いていく。できたところを褒め、自信をもたせていく。 鑑賞の活動を更に充実させて、表現方法の多様性に気付き、自分たちの表現に生かせるようにしていく。 多様な楽器の演奏を経験させ、合わせて演奏する楽しさを味わい、よりよいものを目指す態度を育てていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動している。 これまでに身につけた技法を用いて制作している。 作品をじっくり作りこむクラスと仕上げるのが早いクラスがある。 鑑賞では、友達の作品の良さに気づける。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時ごと実演で制作全体の見通しを示し、その時間ごとのポイントを理解させる。 個別の声掛けで作業内容、スピードの確認。大幅な遅れは休み時間に対応しカバーする。 彫刻刀や電動糸鋸等、危険な道具が多く出てくるため、安全管理をしっかり行う。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家族の生活を見つめ、家族の一員として、できることを実践する姿が見られる一方で、家庭科で学習したことを生かしている児童は少ない。 基本的な手縫いの学習に意欲的に取り組む児童が多く、小物作りに生かすことができた。安全面の指導で縫い針を紛失しないように意識づけを図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを振り返り友達の体験等も参考にし、家庭で役立つことを進んで行うように指導していく。 各自タブレットのミシンの動画を見ながら、安全で正しい操作を身に付け、ランチョンマットの製作を通して、作る楽しさや生活に役立つことへの喜びを実感できるようにする。 ペアで使う用具で作業をする場合は、一人一人が安全面に気を付け、作業前と作業後には石鹸で手洗いをすることを習慣化させ、衛生面もしっかり行う。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に楽しく取り組んでいる児童が多い。しかし、指示されたことは一生懸命行いが、自主的に運動に取り組もうとする意欲に課題がある児童もいる。 ルールを守り、運動を楽しむことができる。チームワークよく、友達と作戦を工夫することができる。 日常の遊びの中であまり触れていない動き（マット運動、柔軟性、投運動など）に関しては、十分に力が身に付いていない児童が多い。また、技能面に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や場の工夫、学習カードの活用をして、自ら課題を設定し、粘り強く取り組めるように学習環境を整える。体育学習だけでなく、パワーアップ朝会を活用し、楽しみながら運動に取り組めるように工夫する。 安全に気を付けて全力で取り組む大切さや、進んで友達を励ましたり、助言したり、応援したりする態度について、毎時間価値付けて指導をする。 学習カードを活用し、自分のめあてと活動を振り返りながら、技能の向上を目指す。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に発言する児童が多い。友達の考えにハンドサインを出したり、付け足しをしたりできているが、考えを深めることがあまりできていない。 道徳的価値については概ね理解できているが、自分の生活経験と関連付けて考えることに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを一人一人が表現し、友達の考えと比較できるように、引き続き発表方法を工夫するとともに、発表の時間を確保する。板書では、児童の考えを分類したり、関連付けたりし、考えの「見える化」を図り、考えを深められるように指導する。 自分の振り返りの時間をしっかりと確保することで、自分の今後の生活に生かしていけるようにする。また、事前に児童に取ったアンケートを紹介したり、題材に合った身近な出来事を話したりして、関心が高まるように導入を工夫する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に大きな声で発声できる児童と自信がなく小声になってしまう児童がいる。 ALTと一緒にゲームや歌、チャンツを行い、楽しみながら英語を話すことに慣れ親しんでいる。 外国語や外国の文化に親しむ経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して外国語を発することができるような雰囲気を作ったり、意図的にゲームやアクティビティなどを取り入れたりするようにする。 外国語に慣れていくために、歌やゲームなどを多く取り入れる。また、ALTや友達と外国語を使ったコミュニケーションをとれる場をたくさん設ける。 ALTや、視聴覚教材などを活用し、言語の違い、日本と外国の文化（行事・生活・習慣など）との違いに気付かせる。

	課題（児童の実態、学習状況、学力調査の結果、指導の実態）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 読書に意欲的な児童が多く、活字に親しんでいる一方、よく読むジャンルに偏りがある児童がいる。 作文用紙の使い方や、文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の理解度の個人差が大きい。 前の学年までに配当されている漢字を文や文章の中で大半の児童が使用している。 物語文や説明文に対して、ほとんどの児童が自分の考えをもつことができる。しかし、考えの根拠が明確でない児童が一部いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館協力員と連携して、味見読書や必読図書を推進する。それにより、児童が様々なジャンルの本に触れ、本に興味をもつ機会を作る。 授業の中で語句の係り方や語順、文と文の接続の関係を繰り返し確認する。言語事項に関する内容についてプリントを用いたり、普段から辞書を引く機会を設けたりするなど、継続的な指導をする。 引き続き、習った漢字は日頃から使う習慣を身に付けさせる。ノートやワークシートで習った漢字を使えていない時はその都度直させるなど、継続的な指導をする。 自分の考えの根拠が明確になるように意識的に教材文に立ち返らせる。読み取った登場人物の気持や筆者の伝えたいことを書いたり、友達と伝え合ったりする活動を多く設定する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習に対して興味をもって取り組める児童が増えてきた。 資料から情報を読み取ることにに対しては意欲的である。 資料を読み取る力や読み取ったことから考えること、それを表現する力には個人差が大きい。 調べて分かったことを整理したり、学んだことから自分が考えたことを文章にしたりして自分の力で学習のまとめをすることについて苦手を感じている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画などの資料を使い、視点を絞って資料を読み取らせるようにする。また、同じやり方を繰り返し行うことで、資料を読み取る力を身に付けさせる。 例示したり、友達と交流したりする活動を多く取り入れ、表現の仕方を増やせるようにする。 単元の最初に学習問題や学習計画を立て、何をどのように学んでいくのか、学習のイメージをもたせる。単元のまとめでは、学習問題に立ち返り、自分の意見をまとめる活動を行い、意見を表現していく。 単元後のまとめをノートに書かせたり、学習課題を調べて新聞にまとめたりする活動を多く取り入れる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心が高く、難しい問題に積極的に取り組もうとする児童も一部いるが、学習に対して受け身な児童が多い。 計算する力、作図する力は概ね身につけている子が多い。 問題に対し一つの解法だけでなく、様々な解法を考えようとしていることができる児童が多い。しかし、それを伝えるのに苦手意識をもっている様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を繰り返す中で、問題を解決できた喜びを感じさせたり、自分に自信をもたせられるような言葉かけをしたりして、学習に前向きに取り組むよさを感じられる指導をする。 習熟度別指導で学習の定着の様子を把握し、必要に応じて個別のフォローを入れていく。 自分に自信をもたせる指導と同時に考えの伝え方のモデルを示し、苦手意識を徐々に克服できるようにする。 問題解決型の学習を繰り返し行うことで、学習の進め方を定着させるとともに、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習の流れが定着しつつある。 根拠をもった予想ができていない児童が一部いる。 実験方法を児童が自分たちで考える力や、目的意識をもって実験できていない子もいる。 実験の結果を図や言葉、表などを適切に使い、記録することができる児童が多い。結果をもとに考察することもほとんどの児童ができてい。一方で、複数の実験結果を統合的に見て、考察する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き問題的な学習の流れを意識して授業をすすめる。 予想を書く前に、既習事項や生活上の経験を想起させたり、事象提示を工夫したりすることで、根拠をもって予想が考えられるようにする。 学習問題を常に意識して、実験方法を考えたり、実験したりできるようにする。また、理科室にある実験器具の名称や安全な使い方を事前に確認し、実験結果と予想との差異を確認する。 実験結果を整理して黒板に示し、児童が統合的に考察をしやすいうようにする。また、色を変えて相違点に注目しやすいうようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組む児童が多い。 歌唱の活動への意欲にはやや差がある。 リコーダー奏に苦手意識をもっている児童もいるが、できるところは挑戦しようとする前向きに取り組む姿勢が見られる。 鑑賞の活動に興味をもって取り組んでいるが、自分たちの表現と直接結びつけて考えられる児童はまだ少数である。 器楽の演奏に意欲的に取り組んでおり、児童同士で教え合うこともできる。よりよい演奏を目指して工夫しようとする意識はまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに意欲が高まるよう、難しい曲にも取り組ませるなど、学習内容を工夫していく。 安心して歌える雰囲気を作ったり、様々な曲に取り組んだりすることで、意欲を高めていく。 リコーダーの学習では、スモールステップで少しずつ演奏できるよう指導し、苦手意識を取り除いていく。できたところを褒め、自信をもたせていく。 引き続き鑑賞の活動を充実させて多様な表現に触れさせ、学んだことを自分の表現に生かしていけるよう学習展開を工夫したり声掛けを行ったりしていく。 演奏を工夫する時間や聴きあう時間を十分確保し、自分や友達の表現のよさを認め合いながら、よりよい演奏を目指す姿勢を育てていく。

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く姿勢が良い。意欲的に取り組む児童が多い。 ・今まで経験した道具・材料を使い、作品をつくることができる。 ・鑑賞では、友達の作品の良いところをみつけ、自分の作品の良さにも気づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程をきっちり理解させるため、多めの見本作品や実演で興味を引く。また工程を区切り、都度確認を怠らない。 ・電動糸鋸や彫刻刀などの刃物の扱い、安全面に配慮する。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の生活時間を見直し、朝食をとる必要性を学習したが、課題意識の低い児童や実践することが難しい児童がいる。 ・ミシンを使って生活に役立つ袋を製作した。より使いやすいようにするには、ポケットの形やどこにつけるかなどを考え、ぬいとりやアップリケなどの飾りを工夫して、個性を表現した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を生きるために、自分でできることを考え、実践していけるようにする。 ・献立を考える上で大切なことや食事の働きを知り、栄養のバランスを考えた1食分の献立を立てることができるようにする。じゃがいもという食材を使った主菜を考えたり、包丁を使って皮をむいたりできるようにし、コロナ禍でできることを考え実践する。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に楽しく取り組んでいる児童が多い。しかし、指示されたことは一生懸命行すが、自主的に運動に取り組もうとする意欲に課題がある児童もいる。また、チームで学習を進めるときは、友達と意見が合わなかった際の解決方法を身に付けさせる必要がある。 ・日常の遊びの中であまり触れていない動き（マット運動、柔軟性、投運動など）に関しては、十分に力が身に付いていない児童が多い。また、技能面に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しめるようなルールを考えたり、チームで協力して作戦を考えたりする学習を多く取り入れていく。また、作戦タイムや、個々に考える時間を設け、うまくいかなかったことを責めるのではなく、問題を解決するにはどうしたらよいかを考えさせるようにする。 ・用具や場の工夫、学習カードの活用をして、自ら課題を設定し、粘り強く取り組めるように学習環境を整える。また、自分の課題に合った練習の場を設けたり、練習方法を考えるなどの工夫をする。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身について考えたり、友達を大切にしようとする思いをもったりすることができる。一方で、相手の立場や意見に思考を巡らせることが苦手な児童が見られる。 ・意見の違いに気づき、友達の意見も自分の意見の良さを考える児童もいる。一方、自分の思いをまとめきれない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りで、児童が他者意識をもちやすいような生活場面を提示して考えさせる。また、ロールプレイなど他者の気持ちを疑似体験できるような機会を多く取り入れる。 ・ペア活動やグループ活動の交流を通して、自分の考えを表出させる活動を増やしていく。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTと一緒にゲームや歌、チャンツを行い、楽しみながら英語を話すことに慣れ親しんでいる。 ・技能に関して個人差が見られる。 ・学習内容の積み重ねがなされていない。 ・外国語や外国の文化に親しむ経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語に慣れていくために、歌やゲームなどを多く取り入れる。また、ALTや友達と外国語を使ったコミュニケーションをとる場を多く設定する。 ・同じ表現を何度も繰り返すことで、安心して発話できるようにする。 ・ねらいに応じたアクティビティー（ゲーム）を選択し、英語を繰り返し発話したり、聞いたりして表現に親しむ。 ・ALTや、視聴覚教材などを活用し、言語の違い、日本と外国の文化（行事・生活・習慣など）との違いに気付かせる。 ・「書く」活動も取り入れ、中学英語につながるようにする。